ラオスを知ろう 考えよう ～ラオス旅行～

学校所在県：山口県
学校名：萩市立紫福小学校
名前：松本　英一
担当教科：全教科

実践教科：総合
対象学年：小学3、4年生
対象人数：12名

■実践の目的

ラオス旅行の疑似体験活動を通して、異文化について知り、考える。

■授業の構成

時限・対象学年	テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1時限目 3･4年生	世界の食卓を比べよう ・ラオスの食卓の写真から考えたことを交流し、ラオスについて興味を持つ	(1) 3つの食卓（中国、ラオス、ドイツ）の写真を提示し、先生が行った国を選ぶ (2) ラオスの食卓を料理、食べ方、人などの視点から見て、感想を交流する (3) ふり返りをする	(1) 3カ国の写真
2時限目 3･4年生	ラオスってどんな国？ ・旅行という疑似体験活動から、ラオスについての理解を深める	(1) ラオス旅行に行くという設定で、映像をもとにラオスについて知る (2) 旅行に行った感想（日記）を交流する (3) 日本とのちがいをまとめ、ふり返りをする	(1) 文化などの違いが分かる写真、映像 (1) セパタクローの球 (2) 模造紙
3時限目 3･4年生	ラオスは〝ちがう〟国？ ・異文化の中にも共通するものがあることを知る	(1) ペタンク、子どもたちの将来の夢、料理など、自分たちと共通する映像を見る (2) 感想を交流する (3) ふり返りをする	(1) 文化などで似ていることが分かる写真、映像 (2) 模造紙
4時限目 3･4年生	電気問題 ・便利になること、支援のあり方を考える	(1)『地球ドラマチック「村に電気がやってきた」』を見る (2) 電気がつくことに賛成か反対か考える (3) 3ヶ月後、村がどうなったか考える (4) 電気がついたことについて意見交流する (5) ふり返りをする	(1) 映像 『地球ドラマチック「村に電気がやってきた」』
5時限目 3･4年生	お礼のプレゼントをしよう ・村人や自分たちの思いをもとに、プレゼント内容を考える	(1) ノンブン村のホームステイを疑似体験する (2) 村人や自分たちの思いをもとに、プレゼント内容を考える (個人→グループ) (3) グループで考えたプレゼントとそのプレゼントを選んだ理由を交流する (4) ふり返りをする	(1) ホームステイの写真、映像 (2) 模造紙

6時限目 3･4年生	「文通をしよう」 ・文通する中でお互いの文化を理解し親近感を持つ	(1) お手紙に書く内容（自己紹介、好きな物・事、日本の紹介、学習で知ったことなど）を確認する (2) 手紙を書く	(1) ラオスの子どもたちの写真 (2) 手紙

この授業に注目

2時限目：「ラオスってどんな国？」

ねらい…ラオス旅行という疑似体験活動を通して、世界には様々な文化や慣習があることを知る。

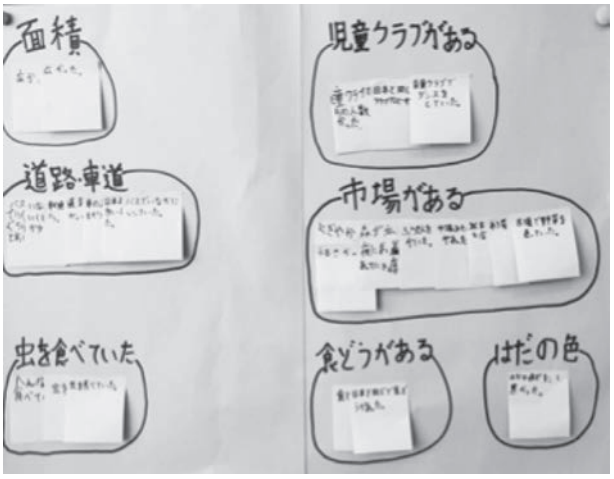
＜本時の流れ＞

(1) 動画に同化し、ラオス旅行をする。
(2) 食べ物や生活の仕方、町の様子に注目し、日本との違いを見つける。　個人 → グループ
(3) グループで交流した意見を紹介する。
(4) ふり返りの日記を書く。

＜児童の様子＞

ラオス旅行が当たり3、4年生で旅行に行くという設定で、導入を行った。遠くに出かける経験が少ない児童が多く、興味津々に学習をスタートできた。飛行機に似せた座席配置にし、映像をもとにラオスの様子を視聴した。人々の生活様式、見たことのないものなど、児童は様々なつぶやきをもらしながら視聴していた。

展開では、映像を視聴して気づいたことを付箋に書いて交流した。交通事情、食事の違い（特に昆虫を食べること）、肌の色、子供文化センターでの様子など、たくさんの違いに気づくことができていた。



グループで話し合った模造紙

＜児童の反応＞

・いろいろな食べ物があって、知っている食べ物がなかった。車の中は、日本とくらべてうるさかった。自ぜんの虫は、日本では食べないけど、食べてきもちわるかった。ラオス語は、何を言っているのか分からなかった。ぼうずの子どもが多かった。
・あつかった。ご飯はきんちょうしたけど、食べたらおいしかった。虫などを食べる人は、なかなか日本にはいない。じ童クラブがあったのには、おどろいた。しかも、ダンスをおどっていた。ヘルメットをかぶらないで、バイクを運転していた。日本ではつかまります。道路はすなだから、冬はこおらないのかな？二日目が楽しみだ。
・へんな虫を食べたり、車の通りが反対だったり、広かった。日本とちがうところばかりではなかった。児童クラブがあったり、食どうや市場、お店みたいな屋台もあるところがにていた。でも、はだの色が少し黒かったのが、ちがった。料理や1日のやることもちがってくると思うので、1日の仕事や、やることをもう少しくわしく知りたいと思いました。
・日本とくらべて、ラオスは児童クラブがあって、そこでダンスみたいなのをしていました。日本は、虫は食べないけど、虫のおしりを食べていました。自然がとてもきれいだから、人に無害なのかなと思いました。それに、虫の声も聞こえたから、やっぱり、かんきょうがいいのかな？と思いました。虫の事ばっかり書いたけど、おもしろかったです。

＜所感＞

世界には様々な文化や慣習があることに気づくことをねらいとしていたので、異文化に気づけるよう動画を編集して導入で視聴させた。意見からは、容姿、町の様子、食事などの違いに注目していたことが窺える。面白かったのは、同じ事に注目しても、捉え方が児童によって異なることである。例えば、屋台があることが「日本と似ている」と言う児童もいれば、「似ていない」という児童もいる。そのような意見を交流するだけでも、児童は興味を湧かせながら友だちの意見を聞いていた。今回は「違い」に目がいくよう映像を編集したが、その中でも日本との共通点に目を向けている児童がいた。その意見を拾い上げ、次時へとつなげていった。

3時限目：「ラオスは〝ちがう〟国？」

ねらい…ラオス旅行という疑似体験活動を通して、異文化の中にも共通するものがあることを知る。

＜本時の流れ＞

（1）ラオス旅行2日目という設定で映像やラオスの子どもたちのスケジュールを視聴する。

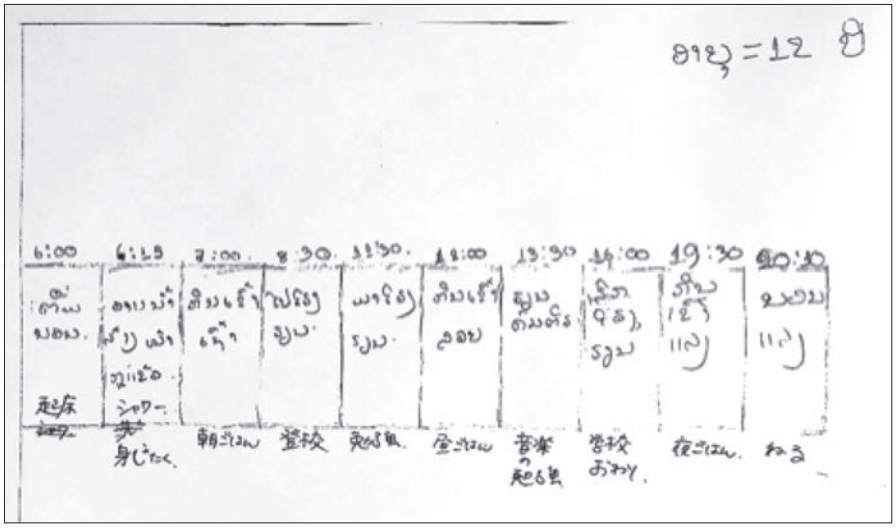
（2）感想を交流する。　個人 → グループ

（3）ふり返りの日記を書く。

＜児童の様子＞

前時の学習で、ラオスの子どもたちの一日の予定が知りたいという意見があったため、映像とともにスケジュールと夢の資料も見させた。一日にシャワーを二度浴びること、お手伝いをよくしていること、登校・帰宅時間など、前時にはなかった違いに気づくことができていた。また、将来の夢や遊びなどに注目し、本時のねらいである〝共通点〟ということにも目を向けることができていた。

ラオスの子どもの夢の絵



ラオスの子どもの１日のスケジュール

＜児童の反応＞

・今日は、子どもたちと遊びました。ペタンクがあったなんて、おどろきました。日本と同じ遊びがあったんだなあと思いました。インタビューをして、たから物は何ですか？というしつ問に、家族と答えてました。わたしも家族だから、あの女の子とは意見が合うなんて、おどろきました。また、三回目の旅行に行きたいです。

・今日は車でい動しました。公園に行くとペタンクをやっていて、私もやっておもしろかったです。ラオスでもペタンクがはやっているんだなと思いました。子どものしょう来のゆめを聞くと、病院の先生、ぎんこういんになりたいといって、日本よりゆめが大きいと思いました。夜はバーベキューをしました。焼き肉のきかいは日本よりすごかったです。お肉もとてもおいしかったです。

・今日は農園に行きました。ペタンクをやっていたので、中に入れさせてもらいました。そしたら、1番近くに行きました。わたしは遊びでも、ゆめでも、日本人ととてもにているんだなと思いました。そして、ペタンクはラオスで1番人気な遊びだという事に、とてもびっくりしました。次は、もっと遊びやゆめなどを知りたいです。とても、おもしろかったです。

・今日、ラオスの人がペタンクをしていました。その時、日本でやる遊びをラオスの人もやるんだなと思いました。ぼくはその時、畑でやっていたので、畑が多いと思いました。ラオスの子は、よくお手つだいをして、すごいと思いました。次は、お手つだいをよくする理由が知りたいです。

＜所感＞

異文化の中の共通点に気づくことをねらいとして、授業を行った。児童の反応にあるように、夢や遊びなどに注目することで共通点に気づけたと思う。共通点があることが分かると、さらに知りたいという気持ちも高まって来たようで、「面白かった」「もっと知りたい」などの前向きな感想が生まれた。注目した事は、前時と同様に同じ情報でも児童によって捉え方が異なることであった。将来の夢でも、日本と似ていると思う児童もいれば、似ていないと思う児童もいる。「似ている」「似ていない」と活発に意見を言い合っている児童の姿が、印象的であった。

4時限目：「電気問題」

ねらい…ラオスの村で起こった電気問題を通して、便利になること、支援のあり方について考える。

＜本時の流れ＞

(1)『地球ドラマチック「村に電気がやってきた」』を視聴する。
(2) 電気がつくことの賛否、3カ月後の村の様子などについて考える。
(3) ふり返りをする

＜「村に電気がやってきた」概要＞

ラオス北部に位置するハティン村には電気が通っておらず、懐中電灯を片手に夕食の支度をしたり子どもたちは勉強をしたりしている。村人は、「テレビを見たい」「勉強して上の学校に行きたい」「便利になりたい」という願いを抱いている。そのような中で、政府とNGOが協力し村に電気を通すプロジェクトが開始する。多くの人はプロジェクトに賛同するが、村が変化することに不安を抱く人もいる。様々な思いが交錯しながらも、無事、村に電気が通る。しかし、電気が通った世帯は、村のごく一部の人だけであった。そのことに不満を抱いた村人が抗議したところ、加えて2世帯に電気が通ることになる。

3ヶ月後、村には様々な変化が起きた。自分たちで水力発電を増築し、電気量を増やした。電気の恩恵で仕事ははかどり、家を石造りに改築、道路の整備、テレビなどのメディア普及など村が発展した。しかし、若者が昼間からラジオを大音量で流し遊んだり、結婚などの慣習が変わったりと、変化に戸惑う人々もいる―――。

＜児童の様子＞

「村に電気がやってきた」の始めの部分で、ラオスの子どもたちが懐中電灯で勉強をしていたことにとても驚いていた。番組の途中で、電気がつくことに賛成か反対か考えたところ、全ての児童が賛成であった。自分たちの生活が電気によって成り立っていること、そして映像の中で電気がない生活がどれだけ大変であるかを意見としてあげていた。しかし、番組の続きを見る中で、どうやら電気をつけることが村人全員の意見ではない事に気づいた。

「村に電気がやってきた」を視聴している様子

3ヶ月後、村がどうなったかの予想では、「壊れた」「不公平な気持ちが高まった」などの意見もあったが、全体としては「全ての家に明かりがついた」などの前向きな意見が多かった。

その後、番組を最後まで視聴し、電気がついたことへの自分の考えをまとめ、本時を終了した

＜児童の反応＞

・わたしは、大きい音はいけないと思ったけど、ぎゃくによいと思いました。電気をつけたのはよいと思いました。かいちゅうでんとうだけでべん強するのは、大へんだったと思うし、お母さんもかた手でやるのも大へんだから、電気をつけたのはよいと思いました。

・ぼくはやっぱりびみょうです。ルールなどを決めて音りょうは小。仕事もちゃんとやる。みんなのことも考える。などとやったら、もっとよくなると思います。でも、村の人は、夜、両手が使えるからべんりになったと思います。

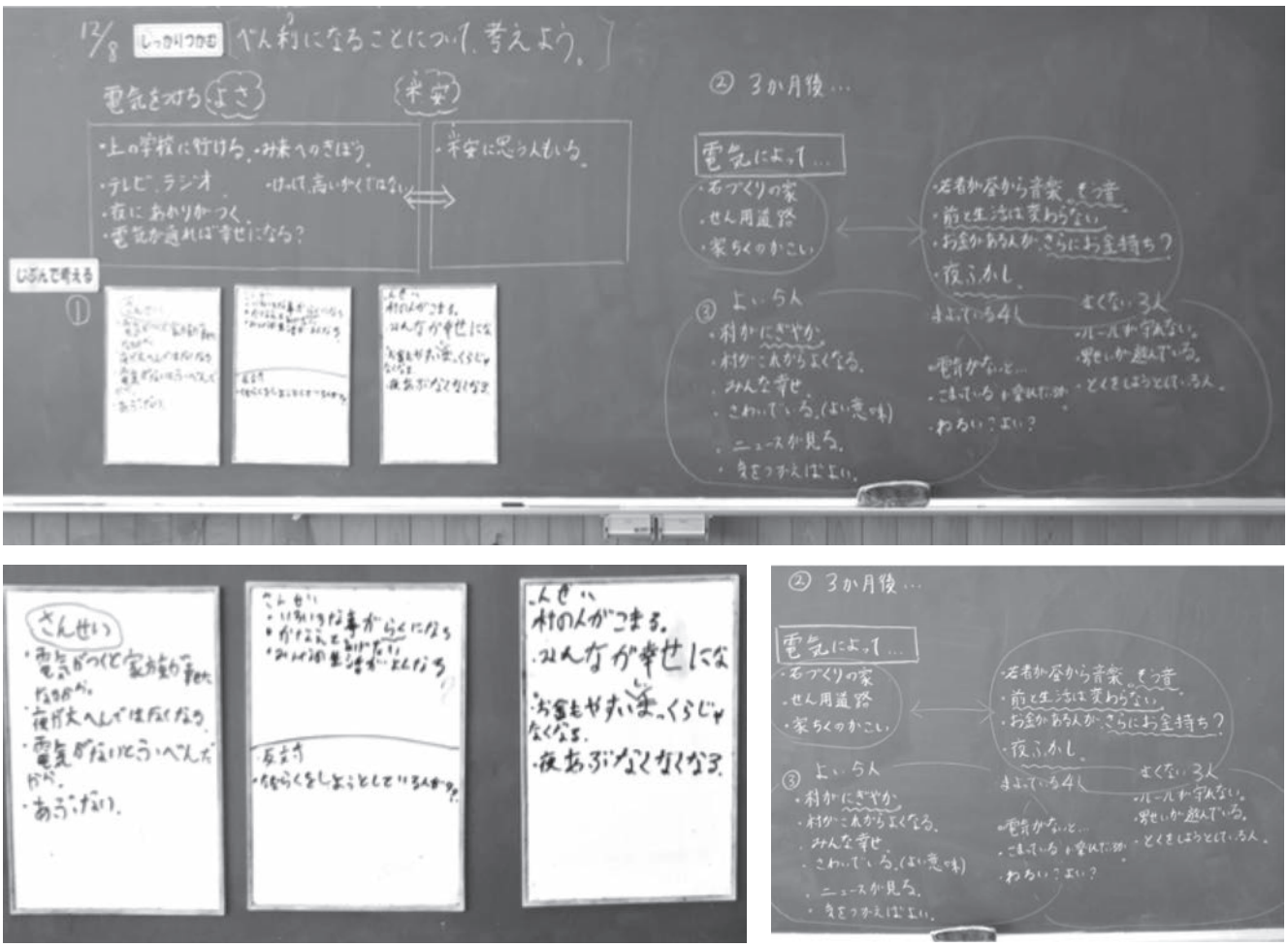
・私はラオスのいなかに電気がつくのはいいと思います。電気がきて村人たちも電気がくるためにはたらいて、電気がきていなかったら石作りの家、かちくのかこいができなくて、村のかんきょうとかも前とかわっていないと思ったし、自分たちでも電気をまねして作っていたのはすごいと思ったからです。

・ぼくは、自分たちが使いやすいからといっても、いきなり使うと今までよかった事が減り、できなかった事が増えているから、ぼくは迷っています。なぜ、今までよかった事が減るのかよく調べたいです。

＜所感＞

これまでの学習とは若干流れが変わった学習となった。この学習を設定した理由として、ラオスで経験したことが生きていた。ラオスではゴミの処理が問題となっている。ゴミは仕分けせず、全て埋めているのだ。これは、もともと自然に帰る物しかゴミとして出ていなかったので、その方法でゴミを処理すればよかったのだが、外からの急速な物質面での影響により、ビニールや金属類など、埋め立てるだけでは処理しきれないものも出ている。つまり、扱いきれないのだ。また、ある村を訪れた際、物をもらうことに慣れている子どもたちがいた。これは、訪れた外国の人が安易に物をあげることで、もらうことが当たり前になっているようだと感じた。研修メンバーと話し合う中で、物を与える物質的支援ではなく、物の扱い方を習得する〝技術的支援〟が本当は大事なことであると考えた。

今回の授業は、電気という物質的支援で村にどのような影響があるのかを考えさせるため、設定した。電気が当たり前にある世界で生きている児童にとっては、やはり電気が必要であるという意見が多かった。一方で、村人の思いをくみ取りながらも、電気がついたことに素直に賛成できないという気持ちも、児童の感想から窺えた。また、「ぼくは、自分たちが使いやすいからといっても、いきなり使うと今までよかった事が減り、できなかった事が増えているから、ぼくは迷っています。なぜ、今までよかった事が減るのかよく調べたいです。」という意見があり、便利になること＝幸せではないのかもしれないという考えを持つ児童もいた。今回の学習を踏まえ、次時の自分たちが物質的支援をする「お礼のプレゼントをしよう」の学習へつながっていく。



4時板書

5時限目：「お礼のプレゼントをしよう」

ねらい…ラオスのプレゼント問題を通して、ラオスの人々と自分たちの思いを理解し合うことについて考える。

＜本時の流れ＞

(1) 動画に同化し、ラオスの村にホームステイをする。

(2) ホームステイしたお礼のプレゼント内容を考える。　個人 → グループ

(3) グループで決めたプレゼントとそれを選んだ理由について意見交流。

(4) ふり返りをする。

＜板書型指導案＞

ホームステイをしよう！

【めあて】ホームステイのお礼のプレゼント内容を考えよう。

村の様子
・木工品と農業が盛ん
・99 世帯
・電気が通っていて、テレビも映る
・小学校がある
・お手伝いをし、皆で食事
・子どもは遊ぶのが大好き
・飴をもらいたがる

村人の思い
・進学することはよいこと
・学校に時計がない
・観光を発展させたい
・日本のことをしりたい

自分たちの思い
・お礼がしたい
・日本のことを紹介したい
・食べ物をあげたい
・面白い遊びを教えたい

【一人学び】0～3個プレゼントを選ぶ。　→　それぞれの考えをもとに、グループでプレゼントを選ぶ。
選んだ理由を考える。

シャボン玉	サッカーボール	3 DS
日本の紹介本	つけもの	梅のお菓子
	せんす	
お菓子のつめ合わせ	時計	たくさんの日本グッズ

【共学び】グループの考え発表。意見交流。

○サッカーボール
○つけもの
○日本の紹介本
(理由)日本のことを知りたいと言っている。子どもは遊ぶのが好き。

○時計
(理由)学校に時計があったら便利。前の学習から、プレゼントし過ぎるのも、良くないと思う。

【まとめ】ふり返りをし、もう一度自分の考えをまとめる。

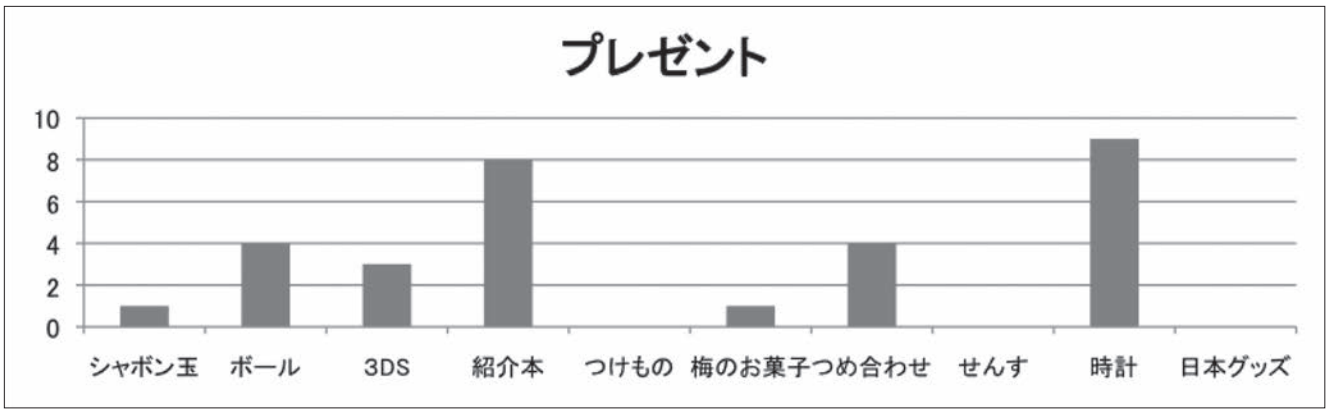
【めあて】	【一人学び】	【共学び】	【まとめ】
・ラオス旅行の最終日であることを確認する ・動画に同化しながら、ホームステイの様子を視聴する ・必要な個所で解説する	・ホームステイのお礼のプレゼントをするという設定を確認する ・選択形式にすることで、意見交流ができるようにする ・村の様子や思いを確認することで、プレゼントを選ぶ判断基準を持たせる	・模造紙を活用し、意見を視覚的に比べられるようにする	・共学びをもとに、自分の考えを深める ・ふり返りを伝える

〈評価〉プレゼント問題を通して、ラオスの人々と自分たちの両方の思いを考える大切さに気づき、国際理解を深めることができたか。

＜児童の様子＞

導入では、ホームステイという言葉にぴんと来ていない児童もいたが、映像が始まると興味津々に見ていた。その後、写真のスライドをみせながら村の様子や思いを確認した。児童は映像と関係付けながら確認し、内容を理解していた。

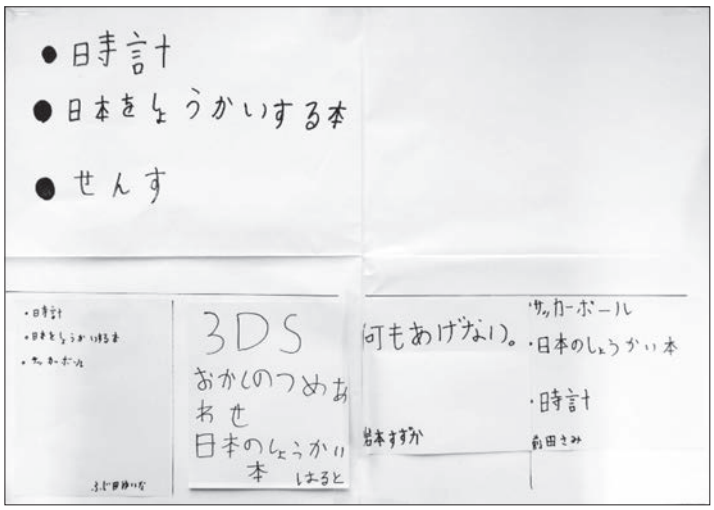
プレゼント選びは、多くの児童が悩んでいた。3個選んだ児童は8名。2個選んだ児童は3名。何も選ばなかった児童（以下、Aとする）は1名であった。Aの理由は、「使い方を知らなかったら、すぐこわれてしまうから」であった。前時の「電気問題」の学習で、外からの物質だけの支援は本当の支援になるのかということを考えていたので、そのことを踏まえた意見であると感じた。以下、プレゼントとして多かった順である。



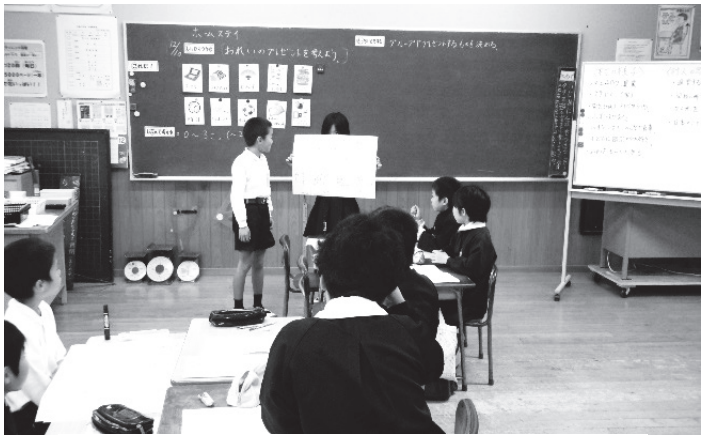
どのプレゼントを選んだか

グループで話し合った後、交流をした。Aグループ「時計」「日本を紹介する本」「せんす」、Bグループ「時計」「お菓子のつめ合わせ」「サッカーボール」、Cグループ「時計」「日本を紹介する本」であった。

まず共通するのは、どのグループも「時計」を選んだことである。理由も同じで、村人の思いを考えてのことであった。また、「日本を紹介する本」も、2グループが選んでいた。Aグループについてはせんすも選んでいて、村人が「日本のことを知りたい」と言っていたこと、自分たちが日本のことを伝えたいという思いが合わさった選択であったようだ。



グループで話し合った模造紙



グループで話し合っている様子

グループごとの発表の様子

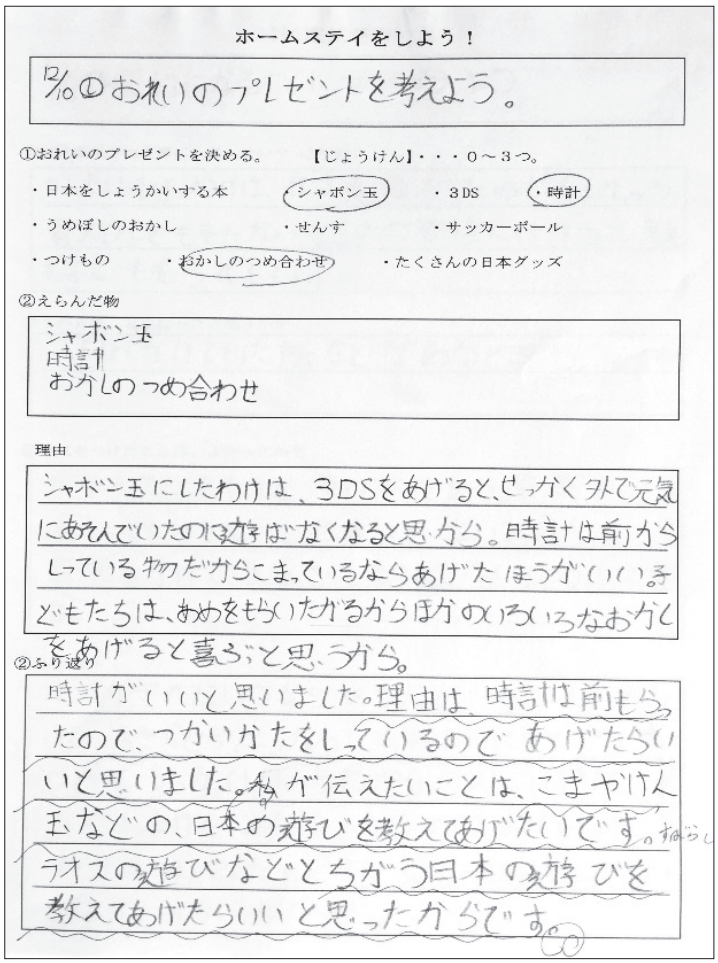
＜児童の反応＞

・ぼくは、ラオス人にもっと日本のことを教えてあげたいと思いました。理由は、日本のことをあるていど知っても、まだ知りたいと思って、ラオス人が日本に来てくれるかもしれないからです。

・わたしはラオス人の事をもっと知りたいし、プレゼントをあげるとよろこぶから、プレゼントをあげたほうもいいけど、何もあげないのはかわいそうだけどよいことと思います。使い方がわからないと、だめだからです。

・わたしは、日本をしょうかいする本がいいと思いました。最初は、何もあげないほうがいいと思ったけど、日本をしょうかいする本をあげたら使い方なども分かると思ったからです。ラオスの人が日本のことを知りたいと言っていた人もいました。

・時計がいいと思いました。理由は、時計は前もらったので、使い方を知っているので、あげたらいいと思いました。私が伝えたいことは、こまやけん玉などの、日本の遊びを教えてあげたいです。ラオスの遊びなどとちがう日本の遊びを教えてあげたらいいと思ったからです。


ホームステイをしよう！

12/0 ①おれいのプレゼントを考えよう。

①おれいのプレゼントを決める。　【じょうけん】・・・0～3つ。

・日本をしょうかいする本　・シャボン玉　・3DS　・時計

・うめぼしのおかし　・せんす　・サッカーボール

・つけもの　・おかしのつめ合わせ　・たくさんの日本グッズ

②えらんだ物

シャボン玉
時計
おかしのつめ合わせ

理由

シャボン玉にしたわけは、3DSをあげると、せっかく外で元気にあそんでいたのに遊ばなくなると思うから。時計は前からしっている物だからこまっているならあげたほうがいいし子どもたちは、あめをもらいたがるからほかのいろいろなおかしをあげると喜ぶと思うから。

②ふり返り

時計がいいと思いました。理由は時計は前もらったので、つかいかたをしっているのであげたらいいと思いました。私が伝えたいことは、こまやけん玉などの、日本の遊びを教えてあげたいです。ラオスの遊びなどとちがう日本の遊びを教えてあげたらいいと思ったからです。

ワークシート

・わたしは、やっぱりサッカーボールは、やめた方がいいと思いました。わけは、空気入れのボール用がなかったら、すぐゴミになるからです。わたしがいいと思うのは、せんすと日本をしょうかいする本がいいと思いました。

・ぼくは、Aさんの何もあげないもよかったと思います。なぜなら、前の事なども考えているのでよかったと思います。ぼくはラオスの人が日本の事をなぜ知りたいか知りたいです。

＜所感＞

単元の集大成として、ラオスの人々と自分たちの思いを理解し合う異文化理解をねらいとして授業を行った。今回も、実際に自分たちが経験した「おみやげ問題」を発展させ構想を練った。おみやげ問題とは、ラオスでホームステイをした際に日本から用意したおみやげを通して、たくさんのおみやげを持参し過ぎたことをふりかえり、渡した物がどのような影響を与えるのかなどを考えたことである。前時の「村に電気がやってきた」の学習で物が与える影響を学習していたので、選択肢の中に「お菓子のつめ合わせ」、「たくさんの日本グッズ」、そして村人がほしいと言っていた「時計」の項目を入れた。Aの理由の中に、「あげてもすぐ壊れてしまうから」とあったことから、前時の学習を意識していることが窺える。そのことに共感している児童もいた。しかし、児童の意識としては、たくさんあげた方がよいのではないか、自分たちが楽しい物をあげたい、という自分自身の思いに依った意見も多かった。

グループごとの意見を見ると、考えを深められたことが感じられる。どのグループの理由にも、ラオスの人々と自分たちの思いの両方を踏まえた意見になっていたからである。

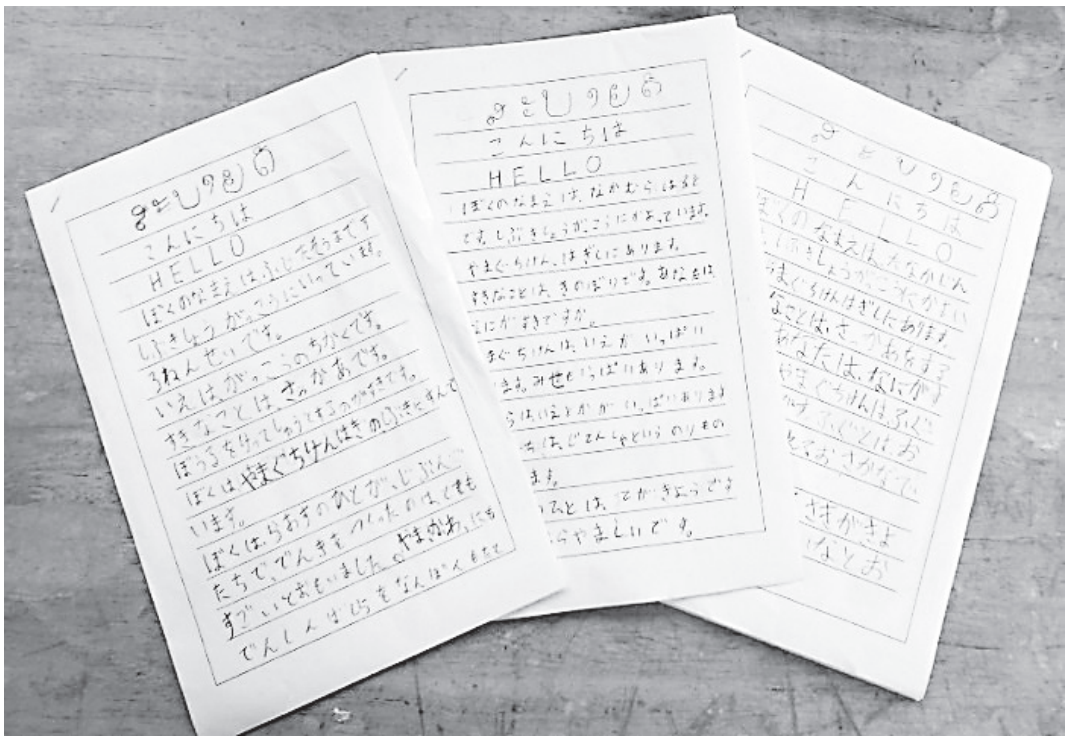
ふり返りでは、Aが「日本を紹介する本」を選んでいたことに注目した。理由としては、日本の物の使い方が分かるからということであった。ただ物をあげる物質的支援ではなく、その使い方を教える技術的支援を行いたいという思いが感じられた。

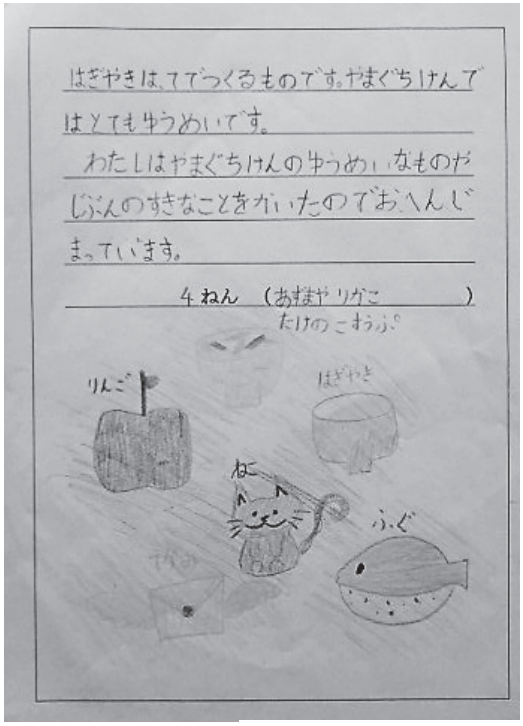
6時間目：「文通をしよう」

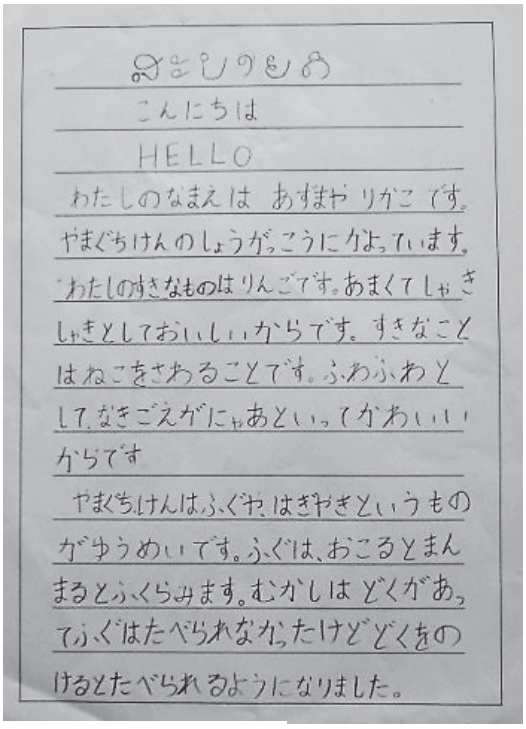
ねらい…ラオスの子どもたちと文通することを通して、お互いの文化を理解し親近感を持つ。

＜児童の様子＞

文通の内容は、あいさつ、自己紹介、日本の紹介、ラオスの学習を通しての感想などである。あいさつではラオ語、英語、日本語で文を書いた。ラオ語も英語も書き方を知らないため、児童は興味半分、不安半分で文章を書いていた。一人一通書き、返信を楽しみに待っている。





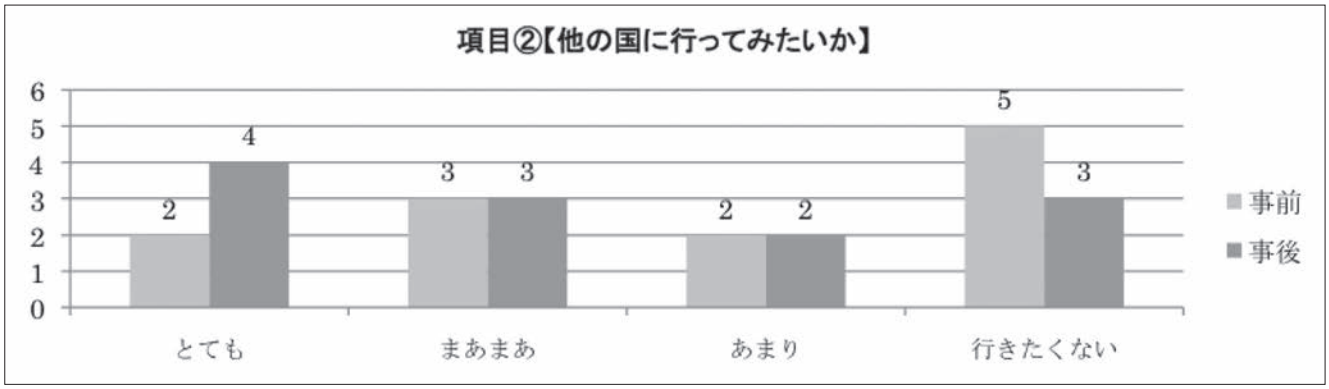


日本の子どもの手紙

事前・事後アンケート

学習の事前、事後に児童へアンケートを行った。事前の項目は①他の国に対してどんなイメージがあるか、②他の国に行ってみたいか、事後の項目は①他の国に対してイメージは変わったか、②他の国に行ってみたいか、である。以下が、アンケート結果である。

項目①【他の国に対してのイメージ】	
どのようなイメージがあるか（事前）	どのようにイメージは変わったか（事後）
・はだが濃い色や薄い色のはだ。	・全員が黒いわけではない。
・はだが黒い。	・背の高い人だけではなく、低い人もいた。
・せが高い。	・いっぱい遊んでいた。
・そんなに遊ばない。	・日本では、していないことをしている。
・すみずらそう。	・そんなにすみずらそうじゃなかった。
・広い。	・ものすごくいなかの所もあった。
・たて物がたくさんありそう。	・外国はあまりお金がないので、電気などがついていないところもある。
・暑いイメージ。	・小さい国があるところ。
・じゅうとかうっているので、少しこわい。	・似ている食べ物があった。
・ナイフやフォークを使って食べる。	・食べる物が違う。
・はしやスプーンなどがなくても手で食べる。	・料理がちょっとこわくて変な物が入っていそうなイメージだったけど、おいしそう。
・お米をあまり食べない。	・パン系のものをよく食べるのは知らなかった。
・ピザをたくさん食べる。	
・七面鳥の肉をそのまま売っている。	



項目①では、主に容姿、町の様子、食べ物についてイメージをあげていた。事前アンケートでは、「すみずらそう」「じゅうとかうっているので、少しこわい」など、どちらかと言えばマイナスイメージが強いように感じた。これは項目②からも窺うことができる。項目②の事前では、「とても・まあまあ」の割合が約40%であり、やはり他の国に対しての気持ちが前向きではないことが分かる。「あまり・行きたくない」を選んだ理由としては、「飛行機が落ちるのがこわい」「食べ物が分からない」「言葉が分からない」という意見が主であった。小学3、4年の児童にとっては、自分たちの身の回りの生活での経験がほとんどであり、海外についての知識として得るのは、テレビなどのメディアがほとんどである。少ない情報だけで物事を判断するのは難しく、それゆえ海外に対してネガティブなイメージを持つ児童が多いと感じた。

さて、事後アンケートを見ると、学習を通して意識が変わったことが窺える。まず項目①では、「全員が黒いわけではない」「そんなにすみずらそうじゃなかった」「料理がちょっとこわくて変な物が入っていそうなイメージだったけど、おいしそう」など、少ない情報で抱いていた先入観が変容していることが分かる。また、項目②では、「とても・まあまあ」の割合が60%になった。「とても」に関しては、倍の人数になっている。「とても・まあまあ」を選んだ理由としては、「外国の1日をいっしょにくらしてみたい」「日本とちがう物が食べられたり、知ることができるから」などがあった。学習を通して生活の様子や文化、慣習を知ることができ、安心感や興味が湧いたことが変容につながったと考える。急激な変化はなかったが、「知らない→こわい、知る→面白い、もっと知りたい」という本単元のねらいが少しでも達成できたと思う。

全体を通しての成果と課題

今回の学習のねらいは、異文化を知り、考えることであった。ラオスのことを知るためには参加型学習がよいと考え、ラオス旅行という形で学習を進めた。印象としては、参加型は意欲・関心が高まるとてもよい手法であると感じた。夏の教職員研修においても参加型形式でラオス研修の報告を行ったが、高評価であった。このことから、学年問わず参加型学習は意欲・関心を高める上で効果的な手法であると思う。

単元は自分たちがラオス研修で実際に経験したこと、感じたことをもとに構想した。異文化と聞くと、どうしても〝違い〟に目がいってしまう。違いに目を向けることで新たな発見ができるという良さがあるが、同時に自分たちの文化より劣っている、理解できないなどの負の面も少なからず浮かんでくると思う。しかし、異文化の中にも共通する部分があることを、私自身がラオス研修の中で学んだ。共通点に目を向けることで親しみが生まれ、〝もっと知りたい〟、〝仲良くなりたい〟という友好の気持ちが育まれる。2、3時間目は、そのことをねらって授業を行ったが、ふり返り日記に「インタビューをして、たから物は何ですか？というしつ問に、家族と答えてました。わたしも家族だから、あの女の子とは意見が合うなんて、おどろきました。」と書いている児童がいた。また、事前・事後アンケートから、学習を通して異文化への興味・関心が高まったことが窺える。これらのことから、異文化への親しみが児童の中で増したと感じた。

もう一つ、ラオス研修中に深く考え、扱いたいと思った題材が「プレゼント問題」である。先に述べたとおり、実際にホームステイする時におみやげを持って行った経験が元になっている。この学習の一番のねらいは「ラオスの人と自分たちの思いを理解し合う」ことである。それに加え、物質的支援よりも技術的支援が大事であることにも気づかせたかった。大量に物を支援するのは、本当の支援にならないことをラオス研修の中で痛感し、児童にも伝えたかったからである。理解し合うことについては、よく考えていたと思う。また、支援方法については、児童Aの意見から意識が広がった印象を受けたが、たくさん物をあげることに議論が及ぶまでには深まっていかなかった。日頃の経験や考える上での基盤となる情報が不足していたことが原因と思う。

本学級は、日頃の経験の中で海外とのつながりがほとんどない児童が多い。その中で、本単元のような学習をすることは、非常に意味があると思う。具体的、実際的な経験を教材にすることで、児童の興味・関心が高まり、視野が広がると思う。また、異文化と出会う学習には、他の教科からは得られない知る喜び、考える悩み、楽しさがあると感じた。本学習の課題になった「技術的支援の大事さを理解すること」は、今回のような学習を定期的に積み重ねたり、身近なことに置き換えて実際に経験したりすることで、課題に近づいていけると思う。ラオス研修で得た題材はまだまだあるので、今後も教材化し実践を重ねていきたい。そして、未来を担う地球市民を育てていきたい。

参考資料

【映像資料】

・『地球ドラマチック「ラオス　村に電気がやってきた」』(2015)／NHK

【インターネット】

・「イタリア料理」　https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%A4%E3%82%BF%E3%83%AA%E3%82%A2%E6%96%99%E7%90%86

・「中国料理」　http://majin.myhome.cx/pot-au-feu/dataroom/dish/china/Chinese_Cuisinese/Chinese_Cuisinese.html